

福島県PTA連合会会報  
第91号\_H25.07.08

# PTAふくしま

## 第91号

福島県PTA連合会  
編集/調査広報委員会  
印刷/泉印刷所

### 「動いて しゃべって リフレッシュ！」



飯館村立

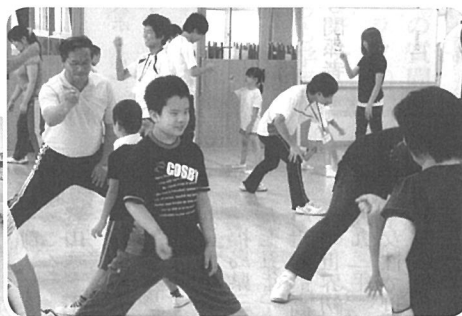
草野小学校

飯樋小学校

白石小学校

飯館中学校

合同での活動



#### 《主な記事》

- 第45回東北ブロックPTA研究大会 P2
- 平成25年度福島県PTA連合会役員一覧 P3
- 第48回県PTA広報紙・学校新聞コンクール P3
- アンケート集計結果から P4
- 安全互助会から P6

(提供 飯館村PTA連絡協議会)

○自己肯定感が低い。  
○対人関係能力やコミュニケーション

昨年度実施された全国学力・学習状況調査では、次のような子どもの姿が確認できています。

震災は全国では関心も薄れ、もう過去のことと思われています。しかし、私たちにとっては進行中であり戦いの真っ只中です。特に原発事故収束には、私たちの想像をはるかに超える膨大な時間が必要でしょう。福島県に生活する限り、放射線量とは共存せざるを得ないのです。だからこそ原点に戻り、子どもたちに将来生きていくための力をつけさせることが必要なのです。

シヨン能力が低下している。  
○正解を言えないとダメと思ひ込み、間違いや他人との違いを恐れる。

問題行動の現れ方が多様化しており、問題行動そのものの自覚のない子どもが増えている。

更には地域や社会との「かわり」「つながり」がなく、それゆえに自他の良さや個性を見つめられないなどの現象も起きています。本県の子どもたちも例外ではないでしょう。

PTAは家庭・学校・地域社会の三者をつなぐ団体です。特に家庭教育を推進し、子どもたちの学びをはじめ様々な活動の環境整備が求められています。家庭教育力が問われる今、もう一度わが子を見つめ考える必要があります。家庭は子どもにとって最も身近にある社会です。家族とのふれ合いを通して基本的な生活習慣や生活能力、他人に対する思いやりや自己肯定感などを育てる場であり、常に子どもたちのよりどころとなるところです。愛情をたくさん注げば子どもは真っ直ぐに育ちます。親である私たちが手本となり、家庭教育の原点に戻りましょう。



●県P連会長あいさつ

### 「原点に戻ろう」

福島県PTA連合会

会長 佐藤辰夫

県P連活動スローガン 子と親とが 共に育つ PTA活動を

第四十五回 東北ブロックPTA研究大会福島大会

大会主題

「ほんとの空の下で語り合おう！ 笑顔あふれる子どもの未来を」
〜見つめ直そうPTAの絆、私たちがすべきことの再発見〜

1. 趣 旨

社会が大きく変化し複雑化する中において、今、学校と家庭、家庭と地域の密接で温かな絆が求められています。

東北のPTA会員が、ここ福島の地に参集することにより、日頃のPTA活動をとおして、笑顔あふれる子どもの未来を大いに語り合い、そして、私たちPTA会員が実践すること、を再発見する機会になることを目指します。

2. 主 催

東北PTA連絡協議会
福島県PTA連合会

3. 後 援

公益社団法人日本PTA全国協議会・文部科学省・福島県・福島県教育委員会・福島県市町村教育委員会連絡協議会・福島市・福島市教育委員会・福島県小学校長会・福島県中学校長会・福島県公立小・中学校教頭会・福島県高等学校PTA連合会・福島地区小・中学校長会協議会・福島地区小・中・特別支援学校教頭会連絡協議会・公益財団法人日本教育公務員弘済会福島県支部・福島民報社・福島民友新聞社・河北新報社・朝日新聞福島総局・毎日新聞福島支局

4. 主 管

読売新聞東京本社福島支局・産経新聞社福島支局・NHK福島放送局・ラジオ福島・福島テレビ・福島中央テレビ・福島放送・テレビユー福島・ふくしまFM・福島コミュニティ放送FMボコ

5. 期 日

平成二十五年九月七日(土)・八日(日)

6. 会 場

〔全体会〕
バルセイイざか
〔分科会〕
コラッセふくしま
福島県文化センター(大ホール)
福島県文化センター(小ホール)
こむこむ館
福島テルサ
AOZ(アオウゼ)

7. 参 加 者

東北各県PTA会員及び関係者
(約一、八〇〇名)

8. 参 加 費

三、五〇〇円

9. 日 程

Table with 5 columns and 3 rows showing the schedule for the conference, including registration, lunch, and various sessions.

10. 記念講演

講師

登山家 田部井淳子氏

演題「人生は八合目から」

一九三九年 福島県三春町に生まれる。
一九七五年 世界最高峰エベレストに女性で世界初の登頂に成功する。
一九九二年 女性で世界初の七大陸最高峰登頂者となる。

11. 分科会

Table with 6 columns and 4 rows detailing the sub-committee topics, venues, themes, and perspectives for each of the six sub-committees.

# 平成25年度 福島県 PTA 連合会役員一覧

会 長	佐藤 辰夫 (郡山市 P 連・顧問)
副 会 長	藤原 聡 (福島市 P 連・会長)
"	村上 和行 (田村地方 P 連・会長)
"	小竹 晴彦 (会津若松市 P 連・会長)
"	西 道典 (相馬地方 P 連・会長)
"	福井 一明 (県小学校長会会長)
"	君島 勇吉 (県中学校長会会長)
監 事	齋藤 正明 (西白河 P 連・会長)
"	佐竹 善隆 (大沼郡 P 連・会長)
"	鈴木 敏広 (いわき市 P 連・会長)
"	橋本 和直 (岩瀬地区 P 連・会長)
日 P 評議員	笠間 慎 (北会津地区 P 連・会長)
"	山岸 波 (母 親 代 表)
"	山岸 波 (県 北 ・ 福 島)
母親代表	芦名 紀子 (県 中 南 ・ 郡 山)
"	川島久美子 (会津・会津若松)
"	大樂 治美 (浜 ・ い わ き)
理 事 (役員を除く)	藤野 圭史 (川俣町 P 連・会長)
"	赤井畑直明 (伊達地区 P 連・会長)
"	齋藤 裕二 (安達地方 P 連・会長)
"	瀧田 勉 (郡山市 P 連・会長)
"	迎 茂城 (石川郡 P 連・会長)
"	高田 昇 (東白川郡 P 連・会長)
"	渡部 通 (耶麻地区 P 連・会長)
"	橋本 健 (両沼地区 P 連・会長)
"	二瓶 浩明 (南会津郡 P 連・会長)
"	石田 宗宏 (双葉郡 P 連・会長)
"	遠藤真理子 (県北 P ロック代表)
"	遠藤 晃世 (県中 P ロック代表)
"	古川 晃 (県南 P ロック代表)
"	菊池 芳次 (会津 P ロック代表)
"	芳賀 弘一 (南会津 P ロック代表)
"	渡邊 義人 (相双 P ロック代表)
"	長谷川教夫 (いわき P ロック代表)



第48回県小中学校新聞・PTA広報紙コンクールの審査会は四月十八日、福島市の福島民友新聞社で開かれた。県内の小学校八十四校、中学校三十八校、特別支援学校二校の計百二十四校から、百二十四点の応募があった。審査の結果は次の通り。

### PTA広報紙の部

- ◇最優秀賞  
「和多理」(渡利小)
- 「はちのす」(白河二小)
- ◇優秀賞  
「せいめい」(清明小)
- 「絆」(郡山ザベリオ学園)
- 「桜 水」(須賀川一小)
- 「ほおの木」(喜多方二小)
- 「大 樹」(平一中)
- 「会報はぐくみ」(県立会津養護)

### 学校新聞の部

- ◇入 選  
「しのぶ草」(福島三小)
- 「みなみ風」(南向台小)
- 「飯野小さくら」(飯野小)
- 「薫だより」(薫小)
- 「カリヨン」(小金井小)
- 「あぶくま」(中村一小)
- 「あげつち」(平一小)
- 「ひらくぼ」(平四小)
- 「みくわば」(渡利中)
- 「SAZANKA」(平野中)
- 「白雲」(北信中)
- 「鈴石」(本郷中)
- ◇最優秀賞  
「内川」  
矢祭町立内川中学校
- ◇優秀賞  
「希望」  
翁島小学校
- ◇入 選  
「二年二組絆新聞」  
喜多方市立第一中学校

## 渡利小「和多里」

福島市立渡利小学校

この度は福島県 PTA 広報紙コンクールにおいて、最優秀賞を受賞できましたこと、広報部員一同望外のよきこと、また広報紙制作に関し、ご協力いただいた PTA 会員の皆さま、先生方には心より感謝申し上げます。

一昨年の東日本大震災以降、私たちの暮らす渡利地区は比較的放射線量が高いこともあり、様々な形でマスメディアに登場しました。そこで報道されたものとは違う、いつも元気で何事にも一生懸命に取り組む子どもたちの姿を応援したい、紹介し

## 白河二小「はちのす」

白河市立白河第二小学校

今年度も「最優秀賞」という栄誉ある賞を頂くことが出来ました。いつも思うことですが、保護者の皆さまそして先生方のおかげです。心から感謝申し上げます。そして、栄誉ある賞を頂く度に、身が引き締まり新たな気持ちになります。また、一生懸命に広報委員会活動に参加してくださっている保護者の皆さまのおかげでもあります。ありがとうございます。とにか、自分たちが楽しもう！そして、読んでくださる方に楽しんで見

たい、そんな気持ちで広報紙づくりに取り組みました。しかし、放射線という見えない脅威に対して、保護者間でも様々な不安や葛藤があり、同じ学校で学ぶ子どもたちも、以前とは違う空気を感じていたと思います。勉強不足は否めず、納得のいく紙面作りが出来た！とは言えませんが、それでも保護者の皆さんの現在の状況に対する悩みや、考えをお互いに共有するよう内容にはなったのではないかと思います。これからも子どもたちがより楽しく、充実した学校生活を送れるように、よりよい紙面作りに努力していきたいと思っております。

(広報部長 鈴木 貴子)

てもらおう！をコンセプトに活動していることが、受賞できた一番の要因ではないかと思えます。紙面作成では、委員さんのいろんな意見が飛び交い、アイデアが出れば出るほどハイレベルになり、紙面構成の難易度が増します。そのため、昨年は背景に写真を使い文章を上に載せた時にどうしてもうまくいかず、悪戦苦闘した思い出があります。しかし、その苦労が良い広報紙作りに反映しています。今年も、もちろん「最優秀賞」を目指して一年活動していきます。栄誉ある賞をありがとうございます。

(広報委員長 大竹 美保)



# 東日本大震災以降の状況把握のために 保護者アンケートの結果から

健全育成委員会云々

このたび各都市連Pの皆様のご協力により、一昨年三月に発生した「東日本大震災」、「福島第一原発事故」のその後の子どもたちを取り巻く環境の変化を中心として、保護者を対象としたアンケートを実施し、その結果をまとめることができました。

今回のアンケートは、震災、事故後二年以上が経っている状況の中で、何がかわって、何がかわらないのか、どんな不安があるのか

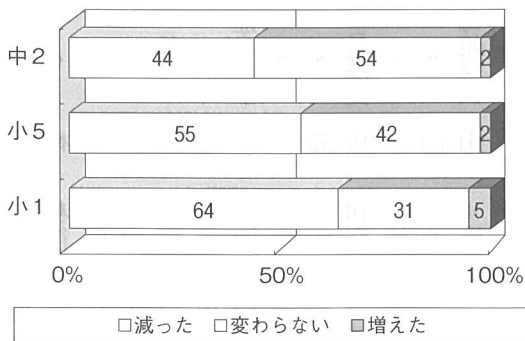
◆ 今回のアンケートで、あきらまになったこと(要約)

- 外遊びに対する不安は学年が下がるほど強い傾向が見られる。
- 休日の低線量地域への外出も同様に、学年が下がるほど増える傾向が見られる。
- プールなどの水遊びについて遊びほど強い不安傾向は見られなかった。
- 飲み水に関しては、家庭でも学校でも、低学年ほど水道水の利用が減少する傾向が見られたがその割合は、学校よりも家庭の方が強く出ることが分かる。
- 野菜や果物の産地への意識は、特に小一で強いことが分かった。小五、中二では大差がなかった。
- 家庭と学校給食での食材への不安に関しては、特に家庭では学年による差異が見られたが、学校給食では差異が見られなかった。また学校給食への不安の割合も減っている。
- 子どもと家庭で話す割合は、学年間での差異はあまり大きく出なかったが、低学年ほど対話が増える傾向が見られた。
- 放射線対策として一番気を付けていることは手洗い、うがい、全体の七〜八割程度となっている。マスクの着用は非常に少なくなってきた。

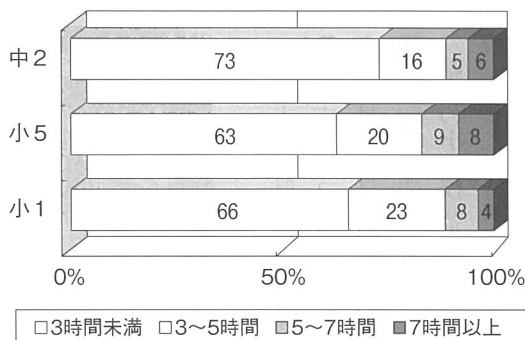
次に、主なアンケート内容とその結果について、グラフなどを交えながら述べます。

子どもたちの遊びの変化について、まず、外遊びについては、やはり学年が下がるほど放射線の影響を強く心配する傾向が見られます。(グラフ①)

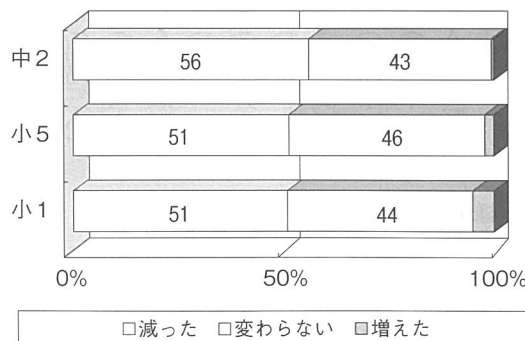
① 自宅近くでの外遊びの時間の変化



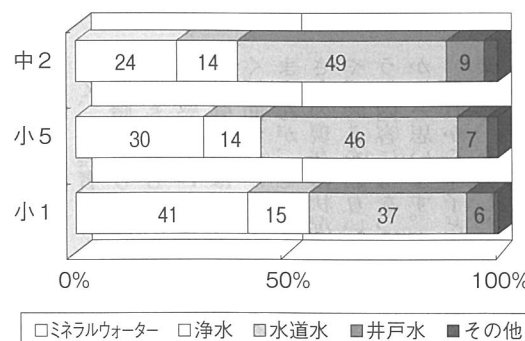
② 一週間での学校生活以外の戸外の時間



③ プールなどの水遊びの機会

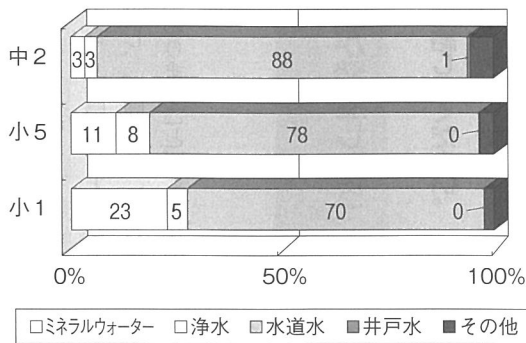


④-1 飲み水(自宅)





④-2 飲み水 (学校)

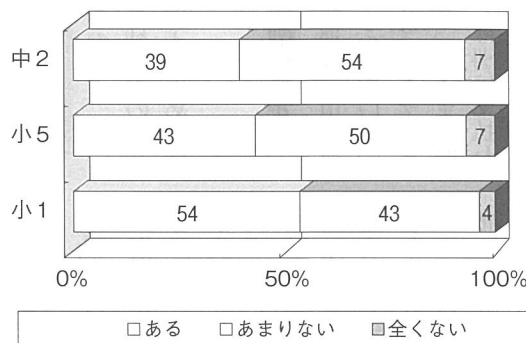


水に関する質問では、まず、プール等の水遊び(グラフ③)では、特に学年間の顕著な傾向は見られませんでした。全体の半数程度が「減った」と回答していますが、外遊びよりはその割合が少ないのは、水の特質に対する理解が進んだことによるのかも知れません。

飲み水に関しては、家庭(グラフ④-1)と学校(グラフ④-2)で割合は異なりますが、学年が下がるほどミネラルウォーターや浄水の割合が高くなっています。

ただ、家庭と学校は同じ水源の場合が多いので、学校で七割以上が水道水を利用していることを考えると、毎日ミネラルウォーターや浄水を持たせることへの負担もあ

⑥地元の野菜や果物への不安



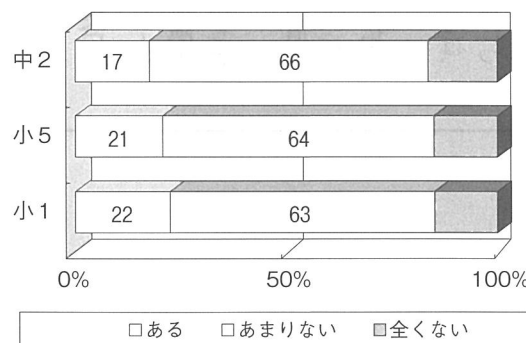
るのではないかと考えられます。

次に、食材に関しての質問では、地元への不安(グラフ⑥)、給食への不安(グラフ⑦)と二つを並べてみると、どちらも学年が下がるにつれ、その意識、不安が増していることが分かります。屋外での生活の場合と同様の結果でした。

ただ、給食に関しては、食材の線量等の情報が出されており、ある程度信頼されている面もあることが、給食への不安の割合が他より低い結果となって表れているようです。

不安があると回答した保護者の意見としては、地元の食材について、「全て検査しているのか」「0

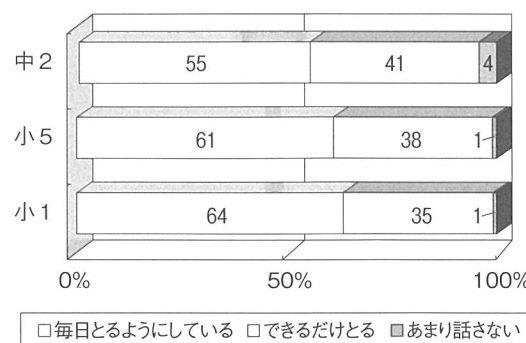
⑦給食の食材への不安



ではないから」などが多く、給食の食材については、「絶対安全と言い切れるか」「積算したらどうなるのか」などの意見が不安材料として出されていました。

次に、子どもの生活環境に関する質問(グラフ⑧)では、やはり、音や暗さに関して敏感になっていることがうかがえます。ここでも、学年が下がるほどその傾向は顕著に表れており、特に、一年生は、六割強が何らかの不安を持っていてことが分かります。不安を取り除く意味でも、子どもとの会話は重要です。子どもと話す時間は、どの学年でも半数以上が毎日行っていると回答していました。(グラフ⑨)

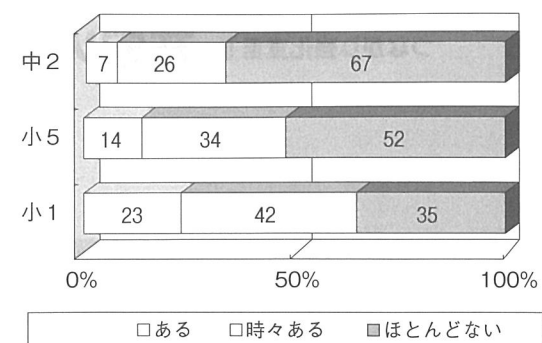
⑨子どもと家族で話す時間



ただ、この結果は、平成二十二年度の調査に比べると、各学年とも二割ほど減少しています。今回の事故で、精神的な余裕がなくなっていることも考えられます。

今回の調査では、ほとんどの項目で、学年が下がるほど強い傾向を示していることが分かりました。また、県北、県中、相馬の各地区において、その傾向がより強く出ていることも分かりました。

⑧地震や突然の音や消灯等での不安



# 安全互助会から

常日頃より、福島県PTA安全互助会に対し、ご理解とご協力をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

## 万が一、事故が発生したら

### ①学校に連絡してください。

【学童のケガ】  
学校の管理下外での、急激かつ偶然な、外来の事故によるけがを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が七日以上の場合に対象

※低温火傷、腱鞘炎、疲労骨折などは、急激かつ偶然な外来の事故には該当しないため対象外

※学校管理下の登下校中（自宅より校門前まで）、学校休業中の部活動でのケガは補償対象

### 【PTA会員のけが】

PTA会員（含む学童）が、PTA主催・共催行事に参加している時の急激かつ偶然な外来の事故によるケガを補償します。

※入院、通院の場合、治療期間が一日から対象

※PTA行事の資料、計画書（事故日が記載されたもの）を添付のこと

・PTA奉仕作業中のケガ

・PTA球技大会の練習中のケガ

・PTA行事に参加するための往復途上のケガ など

### ②保険金の請求は面倒がらずに

医療費の無料化が進み、市町村によって違いはあるものの窓口での支払いの必要がなくなっています。しかし、本制度は、あくまで保険制度で、医療費とは別に支払われるものなので、面倒がらずに請求手続きをしてください。

### ③賠償事故の不明な点は問い合わせを

学童、PTA会員の賠償事故の補償については、いろいろなケースがありますので、お問い合わせください。

### ④事故報告について

○傷害事故、賠償事故の報告については、ケガをした日・事故が発生した日が基準日となります。

○「事故報告書に、住所や氏名を記載しますが、「フリガナ」の付け忘れが多く見受けられます。そのたびに、学校・幼稚園、請求者ご本人に問い合わせさせていただくこととなりますので、本会宛に郵送

される際、付け忘れがないかどうかご確認くださいと思います。

### ⑤他の保険に加入している場合

○傷害事故については、加入している保険会社からそれぞれに保険金が支払われますので、本会にも忘れず請求してください。

○賠償事故については、他の賠償責任保険に加入している場合は、各保険で損害賠償を按分して支払うこととなります。

したがって、賠償事故については、他の賠償責任保険契約の有無についての確認をお願いしています。

## 編集後記

今年度に入って、自転車事故が多く発生しています。小学生以下の子には、被害軽減のため、ヘルメットの着用が努力義務となっています。（福島県自転車安全運転五則より）  
学校ぐるみで着用運動をしているところがあります。この運動が県内に広まることを願っています。  
(T・H)

<http://www.fukushimaken-pta.jp>  
※年間三回発行される「PTAふくしま」もホームページで見ることができます。

## 共栄火災

夢を、未来を、  
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言！ 共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、  
安心のチカラでそっと支えるサイ。  
共栄火災のサイ吉です。